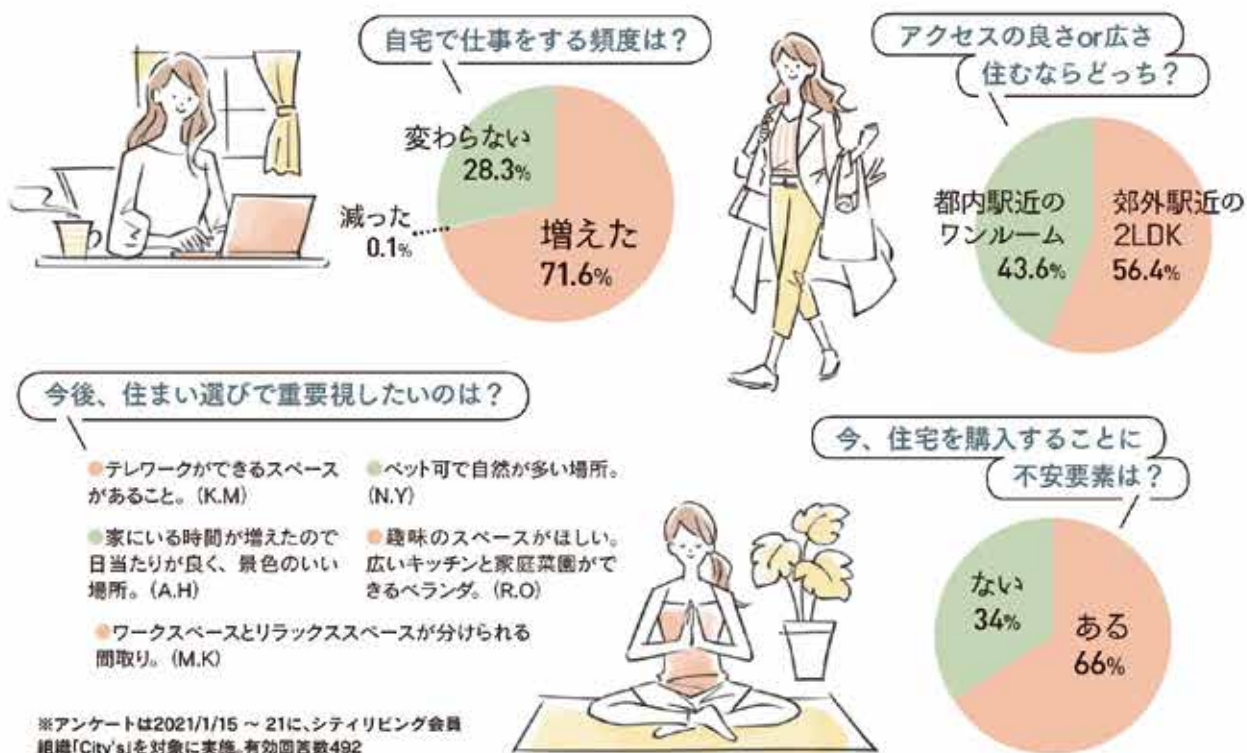


Cityliving

、 コロナ禍で変わった!? 、

働く女性たちが住みたい家

在宅勤務やおうち時間が増えたことにより、住まいへの意識にも変化がありました。シティ読者にアンケートを実施すると、テレワークに使えるスペースや広いキッチンがほしい…などの声。そこから見えてきた理想の暮らしとは？ 私たちはどんな住まいを選ぶべき？ 住宅事情に詳しい専門家に最新の住宅事情について聞きました。



2LDKもしくは+αの一部屋があるマンションが人気

在宅勤務やおうち時間が増えたことで、通信環境の良さ、遮音性が重視されています。遮音性はオンライン会議を行うとき、壁が薄い賃貸住宅だと会議内容が近隣に漏れないか気にする人も多いからです。最近人気な間取りはアトリエ付き。2畳ほどの小部屋をワークスペースにしたり、趣味に集中する部屋にしたりと自由に使えるからです。

住宅ローン控除の条件緩和など追い風も

現在完成、着工されているマンションは条件が良いものばかりです。業界的にも需要と供給のバランスを考え、売れるマンションに絞って建築計画を立てているからです。よって、条件の良い物件はあっという間に売れてしまいます。新築物件に関しては、需要に追いついていないくらいです。そんな中、研究会が提唱してきたコンパクトマンションの住宅ローン控除の条件緩和など、政府からの後押しもあり、今は、住まいを購入するチャンスといえます。

終わりがある住宅ローンは“貯金”

住宅を購入するとすると、やはり気になるのは住宅ローンのこと。特に収入面で不安のあるときは、ためらう人も多いのは事実です。私たち研究会は“住宅ローンはマンション貯金”という考えを持っています。住宅を購入しなくても毎月の家賃は発生します。住宅ローンも毎月支払いが発生しますが、住宅ローンには終わりがあり、住宅ローンを払い終わったときは住宅は財産になります。そのために無理の無い返済計画を研究会で提案しています。

話を聞いた人

女性のための快適住まいづくり研究会
副代表 白石博美さん

創立30年目を迎え、会員数10万人を超える「女性のための快適住まいづくり研究会」の副代表。「女性が生涯にわたり安全で快適に暮らせる住まいづくり」のために「女性のためのかしこいマンション購入術講座【基礎編】」の講師、女性の意見を取り入れたコンパクトマンションの企画提案を行うなど、幅広く活動しています

